

金沢市立泉学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の中心に位置し、平成26年度に旧野町小学校と旧弥生小学校が統合して発足した。現在、全校児童は、588名、教職員41名である。

地域は、加賀藩の仏具や和菓子、加賀友禅などの文化を創出し、加賀藩の伝統産業を支えてきた。藩政期の頃より、旧北陸道（泉通り）と旧鶴来街道（六斗林通り）沿いに人家や神社が建ち並ぶ歴史のある町並みであったが、戦後は様々な公共施設ができ、文教地区として発展し、今に至っている。

本年度もユネスコスクールの認定を受け、豊かな教育資源を活用した持続発展教育の実践に取り組んでいる。

泉新発見 ～人・伝統・文化とのつながりを大切にして

1 ユネスコスクールとしての取組

ユネスコスクールとして、環境教育、国際理解教育、伝統や文化に関する教育などの分野を通じて、人と社会・自然・世界などのかかわりについて学習する機会を設けるとともに、子ども達が自己の価値観や生き方を見直し、持続可能な社会の構築に向けて行動できるように取り組む。

そこで、本校では、生活科や総合的な学習の時間を中心に各教科等との連携を図りながら、地域の社会事象や自然環境など子ども達が育つ地域を学習の場として設定し、具体的な活動や体験を通して学習を行っている。

(2) 実践例

■1年生 「ぼくも、わたしも遊び名人～なって遊ぼう昔遊び～」

地域のお年寄りの方と「昔遊びの会」を2回設定し、繰り返し関わり合った。1回目の交流は地域の昔遊び名人さんに旗源平という金沢に伝わる昔遊びやこま、けん玉などを教えてもらった。2回目の会に向けて、子ども達は自分も昔遊び名人になれるよう、繰り返し遊んだり友達と教え合って遊んだりして昔遊びに熱中する姿が見られた。このように地域のお年寄りの方との交流や友達と教え合って遊ぶことを通して、昔遊びの楽しさだけでなく、地域の人や友達と関わり合って学ぶ楽しさを感じることができた。



■2年生 「町のすてきを伝えよう」

泉小校区には、古くから営まれてきた和菓子屋さんや伝統工芸品店、寺院群など、多くの方が訪れる場所がある。このような場所に繰り返し探検に行き、そこにある物だけでなく、そこにいる様々な人との関わりの中で、子ども達はたくさんのすてきを見つけることができた。見つけたすてきは、探検で出会った「まいどさん」になりきり、お家の人に紹介した。このように、町のすてきを見つけて伝える活動を通して、様々な人と関わる楽しさを感じ、自分達の住む町への愛着や誇りをもつことにつながった。



■3年生 「金沢の和菓子・茶道文化を学ぶ」

金沢は、日本三大和菓子処であるが、子ども達にとっては、あまり身近ではなかったのが金沢特有の

和菓子を調べた。子ども達は、和菓子と深いかわりがある茶道と和菓子づくりを体験したいという思いをもった。校区の、茶道の先生・和菓子屋さん大変協力していただき、子ども達は、意欲的に体験活動に取り組んだ。学習したことを生かして、自分たちでデザインした和菓子を和菓子屋さんによっていただき販売したり、保護者を招いてお茶会を開催したりと子ども達の思いに沿って活動を広げることができた。



■ 4年生 「探ろう！加賀友禅の魅力！！」

校区の友禅職人の木村さん、藤村さんに教えていただきながら加賀友禅の制作体験をした。子ども達は、加賀友禅の制作の難しさを体で感じることで、改めて職人さんの技のすごさに気付くことができた。また、制作を通して加賀友禅に対する思いを深めた。作り手である職人さんの加賀友禅に対する熱い思いや願いに加えて加賀友禅の売り手、買い手の思いについても学び、加賀友禅のよさを発信したいと主体的に活動する姿が見られた。



■ 5年生 「伝えよう 私たちの加賀野菜」

加賀野菜という名前をよく耳にしているが、加賀野菜について知識が乏しいのが子ども達の実態であった。そこで、校区在住の「加賀野菜」の名付け親の方にお話をお聞きしたことから、子ども達は、「調べたい・育ててみたい・食べてみたい」と興味をもった。実際に源助大根を栽培したり、農家の方から疑問に思うことを直接聞いたり、スーパーに出向いてお客さんにアンケートをしたりする中で、源助大根の魅力伝えたいという思いが強まった。さらに、チラシをつくるために広告会社の方の力を借り、その魅力を広めることができた。様々な方々との関わりの中で加賀野菜の魅力についてふれることができた。



■ 6年生 「見つけよう！なりたい「私」将来を見つめて」

子ども達が今の自分を見つめ、将来について考えを深め前向きに生きていこうとする態度を育むことをねらった。働くことで自分を磨き、自分を向上させている人や、社会の中で自分の役割を果たし、貢献したいという思いをもっている人と出会うことで、働くことの大切さや、生きることについて考えることができるように様々な職業の人と出会う場を設けた。子ども達は、出会いを通して働くことについての自分の考えを見つめ直し、自分の将来について考えることができた。



2 成果と課題

生活科や総合的な学習の時間では、各教科等との関連づけながら、地域の人・もの・ことと関わられるようなカリキュラムを作成し学習を行ってきた。子ども達は、身近な具体的な活動や体験することを通して、やってみようと思ったことや疑問に思ったことについて課題を設定し、そのことについて自ら探究する中で、主体的に学習しようとする姿が多く見られるようになってきた。また、子ども達は、ゲストティーチャーの方との関わりを通して、改めて自分達が住んでいる地域のよさや魅力を感じることができ、大変有効だった。さらに、友達と関わって学習することで友達のよいところに気づき、自分自身について見つめなおすよききっかけとなった。

課題として、学んだことについて発信するには、学びを自分達だけにとどめるのではなく、発信する相手を意識し、表現・発信する力を付けていくことがあげられる。